

第2回京都市民健康づくり推進会議食育推進部会(10月27日)における 主な意見

1 目指す姿について

○「朝食をほとんど毎日食べる」の「ほとんど」を抜き「朝食を毎日食べる」がよいのではないか。

○「家族や友人と食べる」が2番目に記載されているが、保護者達に不可能と目を背けられないか心配である。まずは、健康は自分の力で守るということを身につけることが大事では。「朝食を食べる」「バランスよく食べる」「適正体重の維持」「適切に食品を選択する力を身につける」の次に「家族や友人と食べましょう」と順序づけた方がよいのではないか。

2 数値目標について

○20歳・30歳代男性、20歳代女性の朝食の目標値が70%とは低いように感じる。親となる世代がこの目標値では、子どもの朝食摂取状況は改善されないのではないか。

3 子どもたちへの食育について

○大変人数が少なくなっている子どもたちを社会の宝として食育を通じて大事に育てる取組をお願いしたい。

例えば、小中学生になると、食育を学ぶことによって国語、算数、理科、社会、英語等全ての教科の学習を行うことができる。小学生から高校生まで食育を通じた総合学習のような取組ができないか。

○小学生の「朝食をほとんど毎日食べる」の割合が87%であり13%弱の子が食べられていないという現実を重く受け止めている。食育プランや啓発をしっかりと保護者達に伝えていかなければならない。

○野外活動などの経験が、子どもたちの生きる力をつけるのに役立つと思う。

○小さい頃から親がしっかりと「口を閉じて食べる」ということを教える必要がある。一度身についた癖はなかなか取ることができない。

○塾通い、貧困児童、共働き世帯の増加等子ども達の食をめぐる環境要因は多くある。

4 高齢者の食育について

○少子高齢化が進む中，健康寿命の延伸を目指すのであれば，高齢者の健康状態が非常に影響するため，高齢者への取組も重要。

○現在，高齢者の食については，柔らかく食べやすいことだけでなく，形にもこだわり食欲がわくような工夫に力を入れている。今後，プランをまとめていくうえで，現在は挙がっていない事業がたくさん出てくるとは思うが，そのような取組も挙がってくると楽しいと感じる。

5 計画全般，その他

○京都市は大都市でありながら，地域のつながりが根付いているという特色がある。地域で各世代が一緒になって食事をする体験を重ねるような取組を行うなど，京都らしさを計画に反映させてほしい。

○各団体の方々との連携をより強めて，食育に取り組んでいきたい。